

令和7年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標 人間尊重を基盤とし、確かな学力と豊かな心でたくましく生きぬく生徒の育成

目指す子どもの姿

- ・自主：自ら考え、計画を立てて自分の力で成し遂げる生徒
- ・創造：探究に富み、豊かな発想で困難に立ち向かえる生徒
- ・根気：健康で明るく、どんなことにも粘り強く努力を続ける生徒

変容を目指す資質・能力

- a 知識及び技能 b 思考力、判断力、表現力等 c 学びにむかう力、人間性等 d 情報活用能力
- e 課題解決能力 f 学び続ける姿勢 g コミュニケーション能力

三田市長 藤井 許 善
 学校長 藤井 許 善
 研究主体【 研究推進委員会 】

前年度			継続性	4月			2～3月 年度末評価	
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)	評価		学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	教員 評価	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)
・基礎学力が定着する取組の推進	○朝学習でドリルパークを用い学習内容の復習を行い、生徒自身が課題と考える科目を繰り返し学習することができた。 ○「がんばり学びタイム」を通して、放課後の時間を有効活用する生徒がおり、数学・英語の学力補充につながった。 ◆紙に書くことを苦手とする生徒もおり、さらにデジタル・紙媒体のバランスの取れた基礎学力の定着を図りたい。	B	・課題解決に必要な、「複数」の情報に「関連付ける」力の育成 (b・d・e)	①①国語、算数の「思考・判断・表現」に関する項目の平均正答率が前年度を+3ポイント以上上回っている。 ②質問調査で「国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈していますか」の設問が全国平均を+5ポイント以上上回っている。 ③質問調査で「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」の肯定的評価が全国平均の+5ポイント以上上回っている。	・国語の授業では、説明文の読み取り時に、図と説明文の関係を説明する場面を設定したり、図を用いて書く工夫をさせる。 ・数学の授業では、筋道を大幅に省略することなく論理的に説明できるような場面を設定する。 ・理科の授業では、情報収集・仮説設定・検証という段階を踏み、学習者が論理的に考える授業を設定する。 ・各教科で複数の資料を提示し、資料を解釈したり自分の意見を考える場面を取り入れる。			
・自学・自習の習慣が定着する取組の推進	○定期考査範囲表に学習ポイントを明示し、考査前の学習計画表作成を各学年実施したことや課題提出の範囲を分散させることにより、生徒が前もって計画的に学習できるようになった。 ○オクリンク配信を年間通して行い、欠席者含む全生徒を対象に学習支援を実施した。来年度も継続し実施したい。	A	・問題解決型の授業構成を中心とした探求の過程を大切に授業改善 (b・g)	①質問調査で「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の肯定的評価が全国平均を+3ポイント以上上回っている。 ②質問調査で「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」の肯定的評価が全国平均の+3ポイント以上上回っている。	・授業者が学習課題を設定し、それに対して学習者が問いを立てながら課題を解決していく授業を展開する。 ・ディベートやグループ討議などを交え、多様な意見の中で学習者の意見を反映させる活動を取り入れる。			
・生徒が主体となる授業の創造 ～主体的な学びを支援する授業実践～ ・論理的思考力の育成 ・批判的思考力の育成 ・自己分析力(メタ認知)の育成	○解答の筋道を丁寧な説明やICT機器を用いたプレゼンテーションにより、論理的に物事を考え伝える場面を設定した。 ○国語や社会でディベートを取り入れることや、グループ討議を交え、言語活動により批判的思考の育成を図った。 ◆全国学力学習状況調査では、正答率の二極化が顕著であり、授業での指導方法の工夫や改善等がさらに必要である。	B	・ICTを最大限活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 (c・d・e・f)	・学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについての質問調査で①～⑦のうち、5項目で肯定評価が75%を上回る。 ①自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。 ②分からないことがあった時に、すぐ調べることができる。 ③楽しみながら学習を進めることができる。 ④画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる。 ⑤自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。 ⑥友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。 ⑦友達と協力しながら学習を進めることができる。	・各教科でICT機器を用いて、学習課題を解決したりパフォーマンス課題等を設定し、自分の考えを深める、他者と意見を共有する、新たな考えを知るといった活動を取り入れる。 ・実技教科において学習者の動きや表現をICT機器を用いて録音・録画し、学習成果をまとめる活動を取り入れる。			
・生徒の課題解決力を高める授業の工夫・改善	○行事の生徒発表、生徒意見を学校生活に生かすシステムの構築など、様々な行事や取り組みを通して生徒自治の風土を築くことができた。 ◆自分たちで決めたルールの徹底が不十分であった点を話し合い、解決する時間を設けられず、次年度への課題となった。	B	・家庭における学習習慣の確立 (c・f)	①質問調査で「学校の授業時間以外の平日の学習時間」が1日あたり2時間以上という回答が全国平均以上。 ②質問調査で「土曜日や日曜日など学校が休みの日の学習時間」が1日あたり2時間以上という回答が全国平均以上。	・年間通して授業のオクリンク配信を行い、欠席者含む全生徒を対象に学習支援を実施する。 ・考査前の学習計画表作成や各教科の課題範囲を少なくし細かに提出させることにより、見通しを持った学習計画や学習習慣の定着を図る。			
・学びの連続性を重視した小中一貫教育の推進	○夏休みの校区内小中学校合同研修により、授業改善及び小中一貫教育推進に向けた取り組みについて意見交流し、学力の課題を共有すると共に各校の学校生活について現状を知ることができた。 ◆学力学習・状況調査の合同分析を実施し、共通課題を認識し、課題解決に向けて各校で協働して臨み、授業改善・学力向上を図りたい。	A	・基礎学力やVUCAな時代を生きていくために必要な学力向上に向けた小・中連携の推進 (a・b・d)	①年1回の中学校区合同研修会の開催と、学力向上に向けた小中連絡会を年2回以上開催する。 ②中学校区内の授業参観において、各教員が参加する。 ③昨年度の全国学力・学習状況調査の各教科における課題となった国語・数学の文章問題正答率を、今年度は前年度以上にする。	・学力向上に向けて、児童生徒に身につけさせたい資質について、「指導と評価の一体化」を目指した授業指導の改善を図る。 ・中学校教員が小学校へ、小学校教員が中学校へ授業参観し、授業展開や生徒・児童理解を把握する。 ・全国学力・学習状況調査の合同分析を担当者で行い、その後合同の研修会を開催する。			
・安心して学べる環境を整えるため命と人権を考慮するカリキュラムの推進	○医療関係などの職員校内研修を実施することにより、職員の緊急対応の知識と技術が向上した。 ○教育相談アンケート実施と教育相談や研修会による分析により、生徒の実態把握及び問題の早期発見、早期対応につなげた。 ○生徒の多様なニーズに合わせた柔軟な対応により、個々で学習する機会を保障するとともに、登校支援を促した。	A						

○「教員評価」は教員対象に実施した自己点検調査結果(0～4の5段階評価)の平均値
 ○「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価
 A・・・十分に達成 B・・・おおよそ達成
 C・・・達成が不十分 D・・・ほとんど達成できず